

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フォレストキッズ行徳教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 27日 ~ 2026年 2月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53 (回答者数)	25
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日 ~ 2026年 2月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員自己評価と保護者評価の結果に大きな乖離が見られず、支援内容や運営体制について概ね共通認識が形成されている点も強みである。内部評価と外部評価の整合性が高いことは、支援の質の安定性を示していると考えられる。	保護者評価や職員からの意見を共有し、改善点の検討材料として活用している。評価結果を単なる集計にとどめず、日々の支援の見直しにつなげることを意識している。	定期的な振り返りの機会を設け、PDCAサイクルをより明確に運用することで、支援の質の継続的向上を図る。
2	子ども一人ひとりの特性や状態に応じた支援を行うことを基本姿勢としており、支援計画の作成・共有体制が適切に機能している点が強みである。職員間での情報共有が図られており、チームとして支援にあたる体制が整っている。	個々の子どものニーズを丁寧に把握し、支援計画に反映させることを意識している。また、職員間での共有を徹底し、支援の方向性にズレが生じないように努めている。	アセスメントの質を高める取り組みを進め、より根拠に基づいた個別支援の充実を図っていく。
3	子どもが安心して過ごせる環境づくりを継続的に行っており、生活空間の清潔さや構造化に関して高い評価を得ている点が強みである。日々の支援において安全面への配慮を徹底している。	事故防止や安全確保に関する意識を職員間で共有し、環境整備や声かけ等を通じて安心できる支援環境の維持に努めている。	安全管理体制の点検を継続し、必要に応じて環境改善や研修の充実を図ることで、より安心して通所できる事業所づくりを進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員自己評価において、標準化されたアセスメント手法の活用や第三者評価の導入について十分とは言えない結果が見られた。客観的指標を用いた支援の質の検証体制は、今後さらに整備が必要である。	日々の支援業務を優先する中で、外部評価制度の活用や新たな評価手法の導入に十分な時間や体制を確保できていないことが一因と考えられる。	外部研修や情報収集を通じてアセスメント手法の導入を検討するとともに、段階的に客観的評価の仕組みを取り入れ、支援の質の向上を図っていく。
2	個々の子どもの状態に応じた個別スペースの確保については、十分とは言えない場面がある。また、業務改善の取り組みが明確な仕組みとして整理されているとは言い難い。	施設スペースの物理的制約に加え、日常支援を優先する中で、業務改善の手順や評価体制を体系的に整理する時間が十分に確保できていないことが要因と考えられる。	空間活用の見直しやレイアウトの工夫を継続的に行い、落ち着いて過ごせる環境づくりを進めるとともに、業務改善の流れを可視化し、PDCAサイクルをより明確に運用していく。
3	支援内容や取り組みについては実施しているものの、その内容を保護者や外部に十分に可視化・発信できていない部分がある。	日々の支援業務を優先する中で、取り組みの整理や情報発信に充てる時間が十分に確保できていないことが一因と考えられる。	支援の取り組みや改善状況を定期的に整理し、分かりやすく発信していくことで、より透明性の高い運営を目指していく。